検印

第６学年１組　国語科学習指導案

平成２５年１０月２９日（火）第５校時
６年１組教室（在籍児童数３２名）
指　導　者　　松伏町立金杉小学校
教諭　　本間　美香

１　単元名・教材名　　作品の世界を深く味わおう
～読書ポスターを作り、学校の友達や先生に紹介しよう
「やまなし」（光村図書６年）

２　単元について

（１）児童の実態

国語科での「読むこと」では、４月に「カレーライス」を学習している。そこでは、登場人物の心情を読み、人物相互の関係から登場人物の心情をとらえた。登場人物の心情について自分の考えをまとめる活動では、感想をもつことに困難さを抱える児童が見られた。原因としては、言葉の表現の幅が狭く、自分の思いを言葉に適切に表現できない場合と、感想と言われても何を書いたらよいか分からない、という場合の２点があるように考えられた。

４月に行われた全国学力テストの結果、「読む能力」は、正答率５１，６％であり、全国の正答率を３，７パーセント上回っていた。ただ、無回答率が２０％をこえる問題もあり、個人差が大きい。特に読み取ったことを記述することに苦手さが見られる。

宮沢賢治については、全員の児童が知っている。１学期に音楽の授業で行われたチェロの演奏会では、チェロと宮沢賢治作品集から、「チェロとピアノのためのイーハトーヴ組曲」より「星めぐりの歌」「饑餓陣営のたそがれの中」を聴いた。また、読み聞かせのお話会においても、「虔十公園林」のお話を聞いている。今月の詩の群読でも「雨ニモマケズ」に取り組んでいる。

６月に学習した「生き物はつながりの中に」では、命をテーマに関連読書を行った。子どもたちは意欲的に読んでいたが、その後の読書活動にはつながらなかった。本好きな児童も多くいて、中には、重松清さんや岡田淳さんなど好きな作家を見つけて読書を楽しむ児童も見られるが、少ない。読書自体を楽しむことが苦手な児童もいる。

読書紹介の経験は、中学年の時に本の帯やポスターで取り組んでいるが、高学年になってからは取り組んでいない。１人の作家についてその生き方・考え方をとらえて読む学習は初めてである。

本単元を授業するにあたって、児童の意識調査の結果は次の通りである。

〈意識調査の結果〉（調査人数　３２人）

１．国語の勉強は好きですか。　　（調査日　９月３０日）

	人数（%）	理由
好き	１４人 （４４%）	・文章を読むのが好き　　・よく分かる ・読書が好き　　・友達と交流するのが好き
どちらかと言えば好き	１４人 （４４%）	・説明をするのが好き ・漢字が楽しい
とちらかと言えば嫌い	３人 （９%）	・文章を読むのが苦手 ・漢字が苦手
嫌い	１人 （３%）	・文章を読むのが苦手 ・よく分からない

・国語に関しては、好きだと感じている児童が多い。特に、読書が好きだと感じている児童が多い。
・交流活動や音読について好きだと感じている児童もいる。
・反対に作文や発表することについては、好きではないと感じている児童が多い。

日常の授業では、発言することに苦手意識をもつ子が多いと感じる。理由を聞くと、恥ずかしい、間違えたら嫌、自信がない、という意見が多い。

本単元では、自分から発言し、自分から文章や本を読む読書活動に取り組む児童の姿を強くイメージしていきたい。その際、宮沢賢治の考え方や生き方に作品を重ねて作品を読む読書の取り組み方を学ばせることで、読書のおもしろさを感じさせたい。本単元が終わった後に、自分の好きな作家を見つけて読書に親しめる子どもたちの姿を目指していきたい。

そのために、本を読む観点をはっきり提示し、その作品のもつメッセージ（主題）について考えさせたいと思う。

（２）単元の指導について

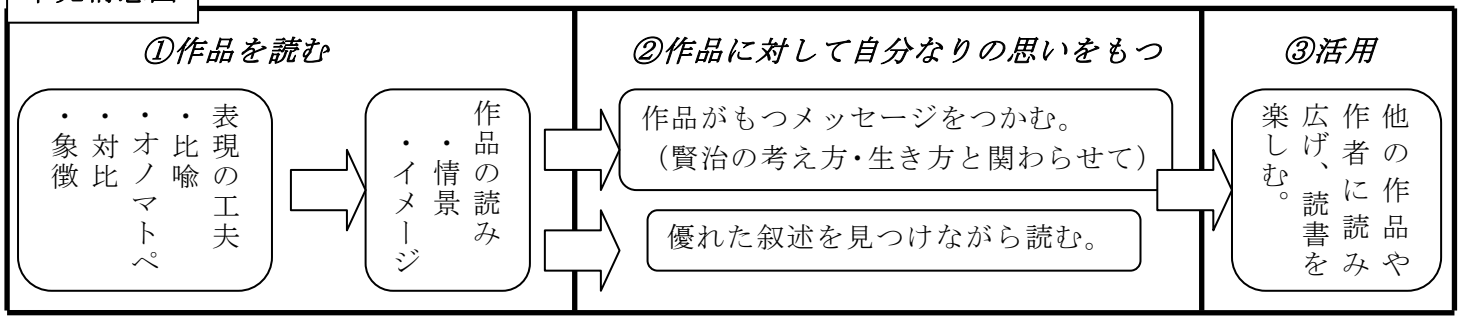
本単元で身に付けさせたい読みの力と指導の工夫		
身に付けさせたい読みの力	◎読　エ	場面についての描写をとらえ、作品の中で使われている表現を味わいながら、優れた叙述について自分の考えをまとめる力
	◎読イカ	目的に応じて複数の本や文章を比べて読み、効果的な読み方を工夫する力
	○伝　カ	語感・言葉の使い方に対する感覚をもつ力
	キ	文章の構成を理解する力
	ケ	比喩や反復などの表現の工夫に気付く力
単元を貫く言語活動	本を読んで紹介する言語活動 読書ポスターで、学校の友達や先生に宮沢賢治さんの作品を紹介しよう。	
具体的な指導方法の工夫	・優れた叙述についてイメージを膨らませるために、音読を取り入れる。 ・描写や表現から場面のイメージを膨らませ、自分の言葉で説明させる。 ・並行読書を呼びかけ、読書への意欲をもたせる。 ①読んだ本について、優れていると感じた叙述をカードに書いてためさせていく。 ②教室に本を置き、ブックリストを配布する。 ③イーハトーヴの絵地図を配り、意欲を喚起する。 ④ブックトークで作品を紹介する。 ・「やまなし」や宮沢賢治作品の読み方が、他の読書活動へとつながるように、他の作者の作品や作者の特徴なども紹介する。	

本単元を通じ、育てたい国語科での児童の姿を、

① 描写や表現から場面についてのイメージをもち、自分の言葉で説明できる。
② 文章の構成、比喩、対比、反復の表現の工夫に気づき、表現のよさを感じることができる。
③ 優れた叙述を見付け、理由を説明することができる。
④ 作品のもつメッセージ（主題）を自分なりにつかむことができる。
⑤ 宮沢賢治作品を多読し、読みの視点（作者の生き方と重ねて読む、優れた表現を見つけながら読む、やまなしとの相違点を見つけながら読む）を活用して、読書の楽しさを実感することができる。

というように設定したい。

単元構想図



「やまなし」には、比喩表現や擬声語・擬態語、色彩語などの表現が多様され、かつ、それらは賢治独自のものであって独特の作品世界を形成する。本単元では、「やまなし」を表現の工夫に気づかせながら、イメージを膨らませ、作品がもつメッセージをつかませたり、優れた叙述を見つけながら読ませたい。

その際、賢治の考え方や生き方にかかわらせて作品のメッセージを自分なりにとらえさせていく。単元の終末では、「やまなし」で学んだ観点で、作者の他の作品へ読み広げさせる。読み広げに関しては、ただ同じ作者の作品を読むのではなく、ある観点のもとに同じ作者の作品を読んでいく活動を設定したい。観点は、

①優れた表現（比喩表現、擬声語や擬態語、色彩語、対比などのイメージの豊かさにつながる表現）を見付けて読む。

②作者の考え方・生き方と重ねて読む。

③「やまなし」との類似点を見付けながら読む。

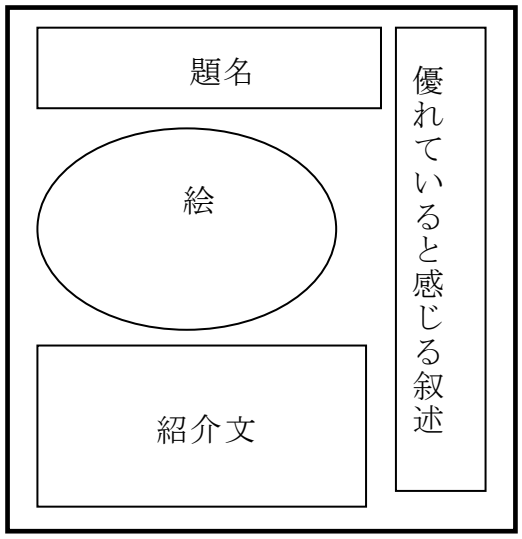
というように設定し、子どもたちに選ばせる。そしてその観点については「やまなし」を味わう際にしっかり学ばせていきたい。

単元の学習課題は、「優れた表現を見つけ、作者の生き方・考え方と重ねながら、宮沢賢治作品を読み広げよう」であり、単元名は「作品の世界を深く味わおう　～読書ポスターを作り、学校の友達や先生に紹介しよう～」と設定した。

単元を貫く言語活動は、読書ポスターを作り、宮沢賢治作品を紹介する、とした。

リーフレットやポップ、本の帯ではなく、読書ポスターを選んだ理由は２つある。１つは、紹介文をある程度の分量で書かせたかったからである。読書ポスターには、題名、絵、優れていると感じた叙述、２００字程度の紹介文をのせる。

【読書ポスターのイメージ】



紹介文は、

①擬態語や擬声語のおもしろさや、比喩などの優れた叙述

②自己犠牲の精神や弱肉強食の世界への反発、自然を大事にする賢治の考え方や生き方が表れている叙述

③場面設定や人物像、構成のおもしろさ

④賢治の作品の表現の特徴（色彩語、やまなしと比べて）

から選ばせて書かせたい。

字数は、２００字程度を考えている。

並行読書の際に、優れていると思われる叙述を抜き書きさせておき、その理由を中心に紹介文を書かせていく。

2つ目は、異学年の友達に朝の活動の時間である読書タイムに紹介させたい、と考えたからである。クラスを訪問して紹介するには、ポップやリーフレットよりもポスターの方が見やすく、適していると考えた。

前単元で学んだスピーチの仕方を生かし、優れていると感じた叙述を音読しながら伝える。その方が子どもたちの力が伸びると考えた。また、異学年の友達を設定することで、分かりやすい言葉を選ぶという思考もはたらき、意欲も喚起されると考えた。

作成した読書ポスターは、図書室や各教室に掲示をお願いしていきたい。

これらの活動を行うことで、優れた叙述について自分の考えをまとめる力や、効果的な読み方をする力が身につくと考えられる。そして、最終的なねらいは、読書活動の観点の拡がりであり、読書活動の充実である。この単元の終了後には、児童の読書活動に広がりが見られることを目標にしたい。また3学期に学ぶ文学的文章「海の命」のねらいである、ものの見方や感じ方を広げることにつながるように、指導していきたい。

3　単元の目標

（1）物語の情景描写や表現方法、作者の考え方や生き方に興味をもち、進んで作品を読もうとしている。
（関心・意欲・態度）

（2）場面についての描写をとらえ、作品の中で使われている表現を味わいながら、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。（読むこと）
自分なりの視点をもって、賢治に関する資料や賢治の作品を読むことができる。（読むこと）

（3）文章の構成について理解したり、作品の中で使われている表現に気づいてその効果を感じたり、語感や言葉の使い方に関心をもったりすることができる。
（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

4　単元の評価規準

	ア　国語への関心・意欲・態度	エ　読む能力	オ　言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・物語の情景描写や表現方法に作者の考え方や生き方に興味をもち、進んで作品を読もうとしている。	・場面についての描写をとらえ、作品の中で使われている表現を味わいながら、優れた叙述について自分の考えをまとめている。 ・自分なりの視点をもって、賢治に関する資料や賢治の作品を読んでいる。	・文章の構成について理解したり、作品の中で使われている表現に気づいてその効果を感じたり、語感や言葉の使い方に関心をもったりすることができる。
学習活動に即した評価規準	①　「やまなし」や宮沢賢治の他の作品を進んで読もうとしている。 ②　「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の考え方や生き方に関心をもっている。	①　「やまなし」を意識して、擬態語や擬声語のおもしろさに気づいて、優れた叙述を探して自分の考えをまとめている。 ②　擬声語や擬態語、比喩表現などから、「五月」の谷川の様子をつかみ、想像を広げながら読んでいる。 ③　擬声語や擬態語、比喩表現などから「十二月」の谷川の様子をつかみ、想像を広げながら読んでいる。 ④　「五月」と「十二月」を対比し、2 枚の幻灯が象徴している世界についてまとめている。 ⑤　作者が「やまなし」という題名をつけた理由と作品から受け取ったメッセージを、賢治の考え方や生き方と関連づけながらまとめている。 ⑥　自分なりの賢治作品のおもしろさの視点をもち、相手に合わせて分かりやすく読書ポスターを書いている。 ⑦　単元全体の学習を通して学んだことや、「やまなし」の読み方で変わったことをまとめている。	①　比喩や擬声語・擬態語などの表現の工夫に気づいている。 ②　語感や言葉の特徴的な使い方に気づき、表現の美しさやよさを感じ、優れた表現を抜き出している。

6　指導と評価の計画

次	時	学習活動	学習内容	評価規準
1	1	○単元の学習課題「作者の生き方や考え方と重ねて作品を読もう。」を確認する。 ○作者について知る。 ○「やまなし」を読み、感想を交流する。 ○単元の学習のゴールである「読書ポスター」を提示し、言語活動のイメージをもつ。 ○音読する。	○単元のめあて ○学習のゴール 「読書ポスター」 ○「やまなし」の擬態語や擬声語のおもしろさ	アの① ・その後の並行読書の様子など
	2	○音読する。 ○構成や色や光に着目して表現の特徴を読み取る。 ○「やまなし」の優れた叙述について考えながら、並行読書について知る。 【手立て】 ・ブックトークと教室へ本の設置 ・ブックリストの配布 ・優れた表現を付箋に抜き出させ、ためさせておく。	○構成 ○表現の特徴 ・擬声語・色彩語 ○並行読書の視点 ①優れた表現（特徴的な言葉の使い方） ②構成 ③内容のおもしろさ ④やまなしと比べて（重要な要素）	エの① ・発表の様子やノートの記述 オの① ・ノートの記述
2	3	○「五月」の谷川の様子を、かにの兄弟の様子とかわせみに着目して読み取る。 ○日光の描写について表現の工夫を読み取る。 ○「五月」の中で、自分が心に残ったり、優れていると思ったりした叙述を決め、イメージを言葉にして紹介する。	○情景を想像した読み取り ○表現の効果 ・擬態語・擬声語 ・比喩表現 ・描写表現	エの② ・ノートの記述や紹介の様子
	4	○「十二月」の谷川の様子を、かにの兄弟の様子とやまなしに着目して読み取る。 ○月の光と波の描写について表現の工夫を読み取る。 ○「十二月」の中で、自分が優れていると思う叙述を決め、イメージを言葉にして紹介する。 ○「五月」と「十二月」の対比について気づいたものをノートに書く。	○情景を想像した読み取り ○表現の効果 ・擬態語・擬声語 ・比喩表現 ・描写表現	エの③ ・ノートの記述や紹介の様子
	5 **本時**	○「五月」と「十二月」を対比する。 ○一番重要だと思う対比を選び、根拠をはっきりさせてまとめ、交流する。 ○「五月」と「十二月」の場面がそれぞれ何を象徴しているのかについてまとめ、賢治が描き出そうとしたのはどんな世界なのか、について交流する。	○２つの場面の対比 ○象徴	エの④ ・ノートの記述や話し合いの様子
3	6	○「イーハトーヴの夢」を読み、作者である宮沢賢治についてまとめる。 ○「イーハトーヴの夢」から賢治の理想について考え賢治が追い求めていた理想を読み取る。 ○賢治の生き方や考え方について自分の考えをもつ。	○学習のゴールの活動のイメージ ○並行読書 ○宮沢賢治の生き方 ・考え方	アの② ・ワークシートや態度の観察

	7	○「やまなし」と「イーハトーヴの夢」を比べる。 ○「やまなし」という題がついたわけを考える。 ○「やまなし」という作品から受け取ったメッセージ（主題）をまとめる。	○やまなしの題名の意味 ○主題	エの⑤ ・ノートの記述
4	8	○これまで並行読書してきた作品と「やまなし」との共通点を見つけたり、賢治の生き方と関連づけたりする。 ○ためてきた付箋を比べ、紹介の視点を考えながら、自分が紹介したい作品を決める。 ○優れていると思われる表現、題名、作者を画用紙に書く。 ○紹介したい理由を明確にし、相手に分かりやすい言葉を選んで紹介文を書く。 ○印象に残っている場面の絵や登場人物の絵を書く。	○宮沢賢治の他の作品 ○読書ポスターの書き方 ○紹介文の書き方 ○紹介の視点 ①表現のおもしろさや美しさ ・擬声語、擬態語、・比喩・描写 ②考え方、生き方が分かる ③内容のおもしろさ ・人物像、場面設定、場面 ④やまなしと比べて	エの⑥、オの② ・読書ポスター
	9	○宮沢賢治の作品について紹介し合う。 ○単元全体の学習を通して学んだことや「やまなし」の読み方で変わったことをまとめる。	○比べ読み ○宮沢賢治の作品の読み広げ	エの⑦ ・ノートの記述
5	読書タイム	○他の学年の友達に読書ポスターで読書紹介をする。	○紹介スピーチの仕方	

7　本時の学習指導（本時 5/9 時）

（1）目標

「五月」と「十二月」を対比し、2 枚の幻灯が象徴している世界についてまとめることができる。

（2）評価規準

「五月」と「十二月」を対比し、2 枚の幻灯が象徴している世界についてまとめている。

（3）展開

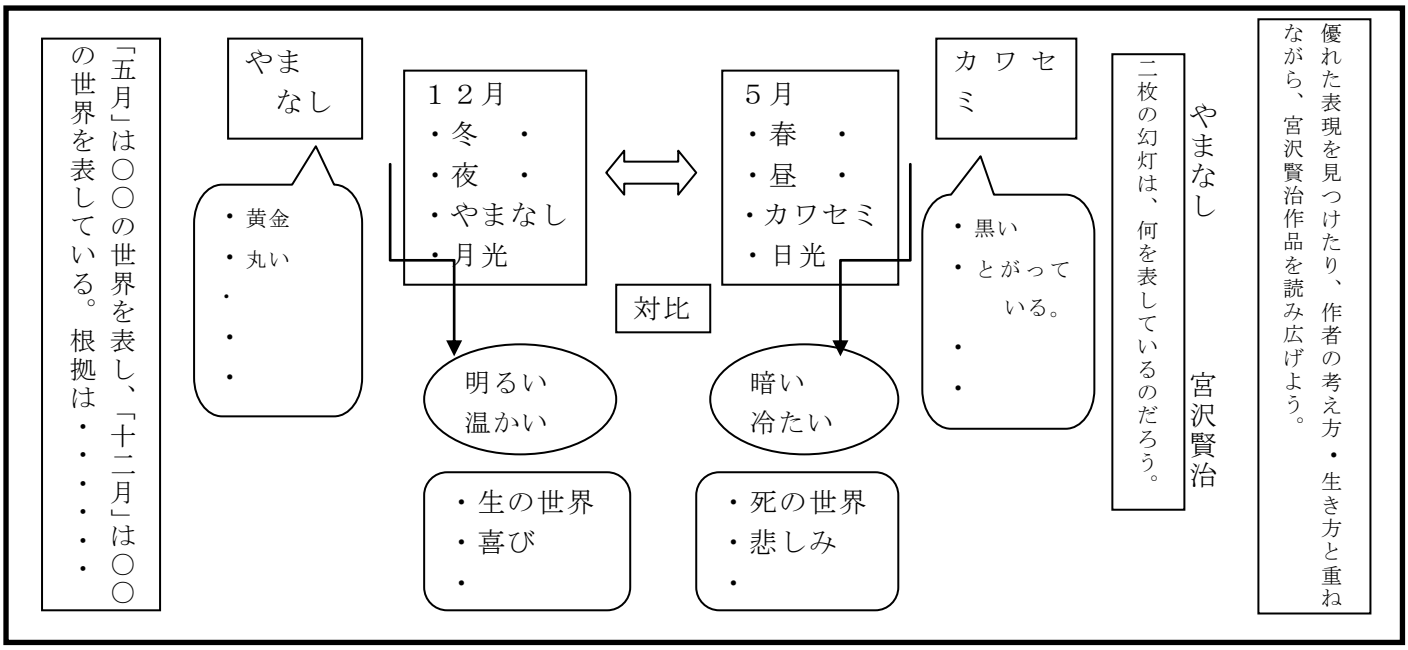
学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫	時間
1．課題をつかむ。	○課題		10
2 枚の幻灯は、何を表しているのだろう。			
2．音読する。	○対比	・課題が書けた子から「五月」と「十二月」の対比に注意させながら各自音読させる。	
3．２枚の幻灯を対比する。	○「五月」と「十二月」の対比	・季節や時間、谷川に登場するもの、光、かにの兄弟の様子、上からやってきたものの違いなどを押さえる。	

		・叙述に着目させる。 ・表現からどんな様子が伝わるか、考えさせる。	
4．一番重要だと考える対比について決め、まとめる。 5．グループ交流する。	○「五月」と「十二月」の対比	・自分が一番重要だと思う対比を決め、その対比を書き、対比の効果をまとめさせる。 ・重要だ、というのはその対比によって二枚の幻灯の違いがはっきりする、ということである、と押さえる。	20
【子どもの意見】 私は､「かわせみ」と「やまなし」の対比だと思います。その対比は、○○という叙述と○○という叙述から分かります。その対比によって､「五月」の暗い様子に比べて､「十二月」の明るい様子がはっきりします。		【交流】「やまなしの中で、一番重要だと思う対比は何だろう。」についてグループ交流させる。 ・4人グループで意見交流させる。 ・共感や比較、言い換え、気づきなどで発言をつなげて交流させる。 ・５月のイメージと１２月のイメージについて話し合わせ、他にも根拠がないか、探させる。 ・交流の後、参考になる考えを書き足したり、自分の考えの根拠を明確にしたりさせる。 ・自分の考えがどう変化したのか、自己評価させる。 自分の考え（A）→（A）自分の考えに確信をもつ （A）→（A）自分の考えを発展させる （A）＋（B）友達から新しい考えを学んで、考えが変化した。 （A）→（C）新しい考えが生まれる。	
6．全体で話し合う	○対比の効果	・「かわせみ」と「やまなし」に注目させ、叙述を音読させながら違いについてまとめる。どんな役割をしているのか、何を象徴しているのか、違いは何かなどをつかませる。 ・どんな感じがするかを聞き、印象をまとめ、2枚の幻灯が何を象徴しているのか､を考える活動につなげていく。	
7．二枚の幻灯が表しているものについて考える。	○二枚の幻灯が象徴しているもの	・印象を基に、一言で象徴していると思うことをまとめさせる。 ・場合によって賢治は二枚の幻灯を描くことによって何を伝えたかったのだろう、と補助発問を入れる。 ・根拠をもたせる。	15

【予想される子どもの意見】

五月	十二月
自然の厳しさ	自然の恵み
死の世界	生の世界
命を奪う	命を与える
悲しみの世界	喜びの世界

評価場面「2 枚の幻灯が表しているものを書く活動に対して」
〈学習活動に即した評価規準〉エの④
〈評価方法〉ノート記入の内容
（評価規準Ａ）
・対比を根拠にそこから伝わるイメージを書くなど、根拠を明確にして、2 枚の幻灯が象徴していることを書いている。
（評価規準Ｂ）
・対比を根拠に、2 枚の幻灯が象徴していることを書いている。
<手立て>
Ｂの子に対して　・その対比によって、どんな効果があるか、を根拠に入れるように助言する。
Ｃの子に対して　・対比を確認させる。

8．自分の考えを発表する。 9．次時の予告を聞く。		・幻灯は2枚あるのに、題名が「やまなし」でなければならなかったのはなぜか、という問いを出し、次時へつなげる。	

8　板書計画